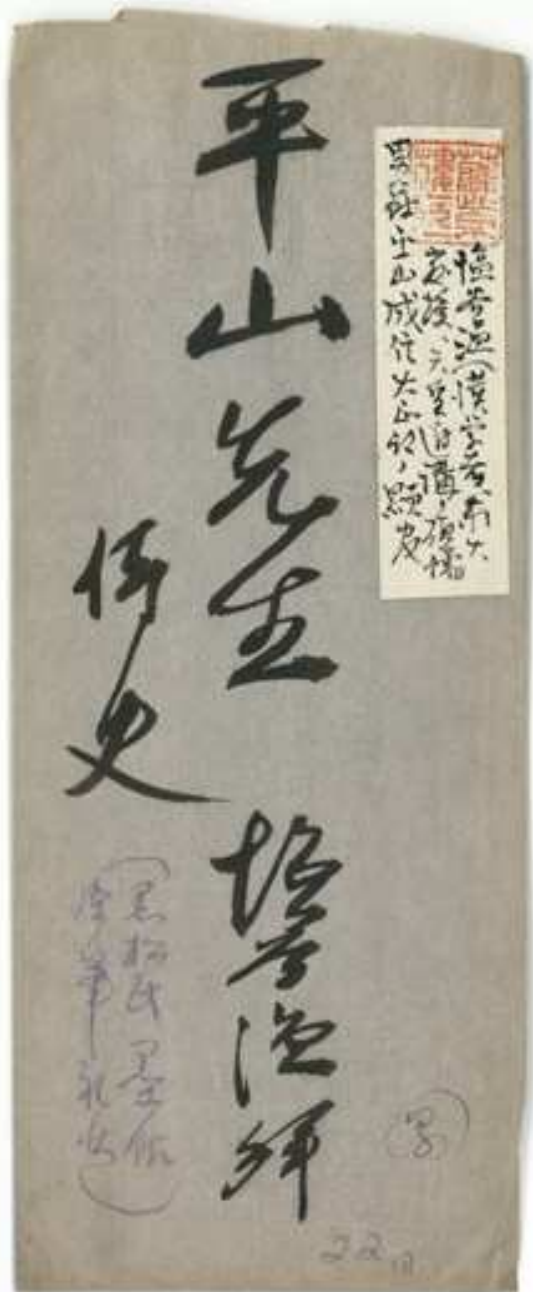


輝煌燦爛の候
 其時新之儀に於て
 海名は黒松氏事
 帖に除字の二紙
 右の市川度宛の
 分枝子と各留油
 き世少くは見よ
 中川安井翁の奇詩
 詩箋は揮毫の
 白牙懸候帖に於て
 贈りしに黒松氏の
 帖は未活家の揮毫と
 得ず乎許の留りしに
 黒松氏拜見の書は
 志光筆を喜ぶ可
 申一有候節柄
 以白髪の程に祈候
 幸し

廿二朝
 竹溪先生
 長文
 謹言





平山先生

何史

培善堂

培善堂漢字書
家藏
吳海山成竹大印於...
經史

吳海山成竹大印於...
經史

8

22.11



